

令和7年5月30日
物流・自動車局国際物流室
総合政策局国際政策課

ITF サミット 2025 において輸送ルートの多元化に関する サイドイベントを日本主催で開催しました ～中央回廊カスピ海ルートの活用に向けて～

国土交通省は、5月21日、ドイツ・ライプチヒで開催された国際交通フォーラム（ITF）サミット 2025 において、他団体と共同で「世界的な危機に対応した交通システムの強靱性・連結性・多元化（※）」をテーマとするサイドイベントを主催しました。

※Transport System Resilience, Connectivity and Diversification in the Face of Climate Change and Other Global Shocks

本サイドイベントでは、特に、欧州と北東アジア間の貨物輸送ルートの多元化をテーマとして、国土交通省のほか、ITF、ジョージア経済・持続的発展省、豊田通商株式会社、株式会社日新に登壇いただき、中央回廊カスピ海ルートの開発の重要性を確認するとともに当該ルートの開発にあたって必要な視点について議論しました。

○開催日時：令和7年5月21日（水）11時00分～12時30分

※本サイドイベントは、Life-Links、Kuehne Climate Center、IRF、Oris Materials Intelligence、Asian Transport Observatory と共同主催（100人程度の聴衆を得て実施。）

※前半（11:00-11:45）に日本主催のパネルディスカッションを実施し、後半（11:45-12:30）にLife-Links主催の「気候変動等の危機に直面した既存のサプライチェーンと輸送回廊における強靱性の構築」をテーマとしたパネルディスカッションを実施。

○場 所：ドイツ・ライプチヒ市

○登壇者

・開会・モデレーター 荒木 愛美子 国土交通省 総合政策局国際政策課
海外インフラシステム展開室長

・基調講演 Yaroslav KHOLODOV ITF 政策アナリスト

・パネルディスカッション

（パネリスト）

廣金 沙季子 国土交通省 物流・自動車局国際物流室 物流渉外官

Aleksandra SULADZE ジョージア経済・持続的発展省

運輸・物流開発政策局 副局長

金 美英 豊田通商株式会社 サプライチェーン本部

グローバル部品事業戦略部長

依田 和人 株式会社日新 欧州本部統轄補佐（兼）

アルマトイ駐在員事務所長

※ITF サミットの開催概要についてはこちら

URL <https://summit.itf-oecd.org/2025/>

別添：結果概要

- 基調講演、パネルディスカッションでの議論を通じ、本サイドイベントでは以下のような方向性を確認しました。
 - ・様々なリスクが顕在化する中、中央回廊の開発は、サプライチェーンの脆弱性への対応やレジリエンスの向上といった観点から、ヨーロッパと北東アジアの貨物輸送の持続可能性を確保するうえで必要不可欠であること
 - ・他方で、中央回廊においてはコマーシャルベースでの運用に向けて、リードタイムやトレーサビリティといった課題があること
 - ・こうした課題を解決するために、官民連携の更なる深化を通じて、民間事業者のサプライチェーンを可視化するとともに、サービスルートの確立、プロトコルの作成、デジタルツールの導入促進といった取り組みが必要であること
- 今後の国土交通省の取組として、中央回廊への官民連携のビジネスツアーを実施しビジネスマッチングの機会に繋げること、中央回廊に関する情報を国際的な場で発信し、議論していくこと等をアピールしました。

- (参考) 基調講演、パネルディスカッションの主な議論について
 - 基調講演 (ITF)
 - ヨーロッパと北東アジアの貨物輸送を持続可能なものとしていくためには、中央回廊の開発が重要かつ不可欠であるとし、克服すべき課題や政策提言について発表。
 - パネルディスカッション
 - ✓ 国土交通省物流・自動車局国際物流室物流渉外官
 - ・昨今の地政学、パンデミック等のリスクの多様化から、中央回廊に関心を持つようになった。中央回廊には、サプライチェーン強化やレジリエンスの観点から期待している。
 - ・今後、中央回廊におけるビジネスツアーの実施や実証輸送の結果の公表を予定している。このような官民連携の取組を拡大し、国際社会での発信を行うとともに、中央回廊の開発に向けた課題と解決策を様々な形で議論していきたい。
 - ✓ ジョージア経済・持続的発展省運輸・物流開発政策局副局長
 - ・中央回廊の開発は、ジョージアのトランジット・物流機能のポテンシャルを十分に活用するものとして、ジョージア政府にとっては重要な優先事項。
 - ・今後は、関係国や第三セクターとも協力し、システム面や施設面での機能拡充をはかっていくことで、中央回廊を真に機能的なものとしたい。
 - ✓ 豊田通商株式会社 グローバル部品事業戦略部長
 - ・中央回廊について、特に夏期に活用機会がある。まずはシーズナルなオペレーションから始めてみるという考え方もある。
 - ・目指すべき姿は、民間事業者のサプライチェーンを可視化し、有事の際も人命・地域社会・生産活動を維持可能な仕組みを構築すること。このためには、官民連携が必要。
 - ・中央回廊における物流施設の実情を知ることができる機会や、現地企業と繋がれる機会を官民で連携して作っていければよいのではないかと。
 - ✓ 株式会社日新 欧州本部統轄補佐 (兼) アルマトイ駐在員事務所長
 - ・中央回廊ルートの課題はリードタイムの短縮と安定化であると考えている。日本の荷主にと

って海上輸送ルート以外に日本から欧州向けに一定の輸送日数で、かつ、安全に輸送できるルートを確保しておくことが最重要。

- ・中央回廊ルートを通る国々との協力関係の構築が必要。



【お問い合わせ先】（代表：03-5253-8111）

- ・ 物流・自動車局国際物流室 廣金、今泉
TEL：（直通）03-5253-8800（内線 41871）
- ・ 総合政策局国際政策課 岩熊、宮脇
TEL：（直通）03-5253-8312（内線 25755、25907）